

## 手作業で田植え

昔ながらの農作業を体験  
5月25日(木)、治田小学校の5年生が、田植えの体験授業を受けました。この授業は、「ふもとの里を守る会」の協力のもと、もち米の苗を手で植えるというものです。はだしで田んぼに入った子どもたちは、最初こそ冷たい泥の感触に悲鳴を上げていたものの、田植えが進むにつれて集中した表情に。泥だらけになりながらも約1時間かけて作業をやりきりました。子どもたちは「田植えって楽しい。またやりたい」と話していました。



1.「冷たい!」「足が変な感じー!」と声を上げながらも、表情はとても楽しそう  
2.どろんこ姿は一生懸命の証!  
3.22人で一列に並んで植えていきます

竹のオブジェは高さ約3メートル。「作るのが好き」と話す伊藤さん



## 憩いの庭園にぜひ来て

目印は大きな竹のオブジェ  
藤原町川合にひときわ目立つ竹のオブジェが登場しました。このオブジェは、近所に住む伊藤清行さんが2カ月かけて一人で制作したもので、オブジェの周りには、10種類の花が植えられ、小さな庭園のようになっています。伊藤さんは「見に来た人に楽しんでもらいたくて、作り始めました。ベンチもあるので、ゆっくりとした憩いの空間になれば。今後は、四季折々の花でいっぱいになりたいです」と思いを語っていました。

市民活動団体のブースに用意された体験コーナーで楽しむ親子



## スマイルフェスタ

活動紹介と舞台発表が行われました  
6月10日(土)、11日(日)に北勢市民会館で「2023スマイルフェスタ in いなべ」が開催されました。10日(土)は、市内の市民活動団体やボランティア団体が、日々の活動をチラシなどで紹介したり、体験コーナーで来場者と交流したりしました。初めて来場したという大橋善太郎さんは「いろんな団体が、活発に活動されていることを知れて良かったです。これからのいなべが楽しみです」と期待を寄せていました。

チームはとても仲が良く、和気あいあいと市長の質問に答えていました



## 全国大会にチャレンジ

小、中学生の部でそれぞれ出場します  
5月29日(月)、員弁剣友会の選手6人が、日本武道館で開催される第57回全国道場少年剣道大会への出場を市長に報告しました。4月に開催された県大会で、小学生の部でベスト8、中学生の部で3位に入賞し、それぞれ全国大会出場を決めました。中学生の部で大将を務める水谷虎之助さんは、「県を代表して出場するので、恥のないように戦い、一戦でも多く勝ちたい」と話していました。

この作品は、市役所の玄関ロビーにしばらく飾られました



## ステキな花を贈呈

父の日にちなんだフラワーアレンジメント  
6月13日(火)、桑名生花商組合青年部から市長にアレンジメントが贈呈されました。これは、市長を「いなべ市の父」となぞらえ、アレンジメントを贈り、市民に花を親しんでもらおうと行われたものです。作成者の近藤正道さんは、「父の日は、黄色のイメージが強いので、季節のヒマワリをメインに使いました。これからは、母の日だけでなく父の日も花を贈る習慣が定着してほしい」と思いを語っていました。

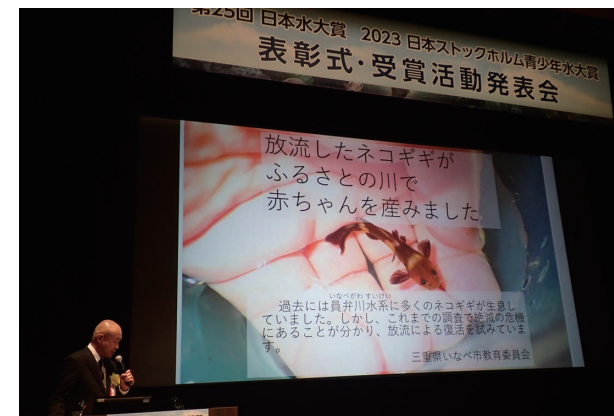
才賀さんは、保育の専門学校で「自然科学概論」も教えています



## 子どもと自然をつなぐ

野外活動のリーダーとして期待  
5月22日(月)、「JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2023」で優秀賞を受賞した才賀美奈さんが市長を訪問しました。「おさんぽの会てて」「いっしょに子育て親友ちなないろのわ」の設立や、保育園での野外体験のサポートなどが評価されました。才賀さんは、「受賞によって、私たちの活動への評価と見直しことができました。今後は、より活動の幅を広げられるような組織作りをしていきたい」と話していました。

絶滅の危機にひんしたネコギギの放流や生息環境の創出に成功



## ネコギギの保護に評価

第25回日本水大賞環境大臣賞  
市教育委員会が環境大臣賞を受賞し、6月13日(火)に、日本科学未来館で開催された表彰式で活動発表をしました。評価されたのは、「国指定天然記念物ネコギギの川での復活」の取り組みです。自然に回復が困難なネコギギの繁殖・生息環境保全を支え、血縁の遠いペアによる飼育や河川工事時の生息環境考慮などを継続的に展開。復活を遂げたネコギギは、生息範囲を少しずつ広げています。